



2015～2018年度実施結果

「シカ捕獲認証」創設から4年間の成果

シカ捕獲認証の概要と目的

- シカ捕獲認証制度（Deer Culling Certificate、以下DCC）は、民間資格として2015年からスタートした
- DCCは、基礎知識を審査するシカ捕獲認証レベル1（以下、DCC1）と技能を審査するレベル2（以下、DCC2）から成る

DCCの教育理念

- 地域のシカ管理における効率的かつ安全で人道的な捕獲
- 優れた食材であるシカ肉の安全かつ持続的資源利用のための食肉衛生
- 地域主体管理を実現する体制づくりのための普及啓発

目的 ★専門的な捕獲従事者及び捕獲コーディネーターの育成

まとめと今後の展望



- DCC受講者の約3割は、道外参加者
- 所属機関の研修の一環としての受講も増加

全国の関係機関等でこうした人材育成制度が求められている

- 北海道外でも開催を検討
- シカ管理体制の構築
→ 他野生動物への発展も検討

活動内容

◆DCC1

講義	内容	時間（分）
イントロダクション		30
関連法令		150
狩猟文化・歴史		90
生態		180
調査・解析		270
シカによる影響		180
管理計画		280
捕獲		360
銃		180
病気		180
食肉衛生		270
銃の取扱（実習）		140
解体（実習）		210
合計		42時間

審査（合格基準）

- 1) シカの生態・管理
・捕獲等の知識に関する筆記試験
(50問中40問正解)
- 2) 食肉衛生・病気等の知識に関する筆記試験
(40問中32問正解)
- 3) 安全な銃器の取り扱いに関する実技試験
(10問中10問正解)
- 4) シカの識別に関する試験
(10問中8問正解)

◆DCC2 ※DCC1取得が条件

- 審査**
- 1) 捕獲計画の作成 → 出題に対して、捕獲方法や体制等を踏まえた捕獲計画を作成
 - 2) 射撃実習 → 直径16cmの円内に3射中3射に的中
射撃距離（ライフル）：100m
（散弾銃）：50m
 - 3) 捕獲・解体実技（シカ2頭分） → 要素1 捕獲のための準備
要素2 銃の取り扱い
要素3 捕獲
要素4 一次処理の準備
要素5 一次処理
要素6 捕獲個体の検査

◆ネットワークの構築（以下、DCCネットワーク）

目的：受講後（DCC1受講者対象）のフォローアップと情報共有

- 研修会の開催（年2回程度）
- メーリングリストの作成

開催結果

◆DCC1

- 2015年からの4年間で計10回開催
- 受講者数は、4年間で119名となり、うち103名を認証



図1. DCC1座学風景



図2. DCC1実習風景

受講者特性

- 受講者の活動地域 → 北海道内89名（74.8%）
北海道外30名（25.2%）
→ 14都道府県+1海外
- 受講者の男女比 → 男87名：女32名
- 受講者の年齢構成 → 20歳代：38名（31.9%）
30歳代：31名（26.1%）
40歳代：27名（22.7%）
50歳代：14名（11.8%）
60歳代以上：9名（7.6%）



図3. 受講者の活動地域

- 受講者の職種
・最も多かったのが、「獣害対策民間団体」

- 「市町村職員」のうち14名は、地域おこし協力隊
- 「その他」のうち10名は、一般狩猟者
- 「国・都道府県職員」、「学生」の受講も年々増加傾向

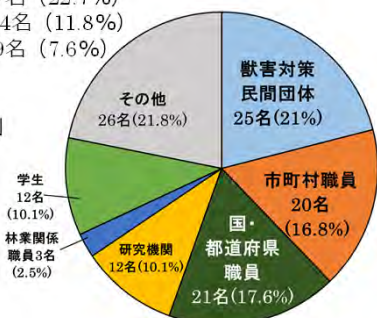


図4. 受講者の職種

◆DCC2

- 現在2名が取得、1名審査中、1名エントリー中



図5. DCC2捕獲審査風景



図6. DCC2解体審査風景

◆DCCネットワーク

- フォローアップ研修会を年2～3回程度実施（計9回開催）
- 第1回：テーマ「安全に、そして美味しくシカ肉を食べよう」 9名参加
- 第2回：テーマ「シカ捕獲のための射撃技術のキソ」 9名参加
- 第3回：テーマ「各地で活躍するDCCメンバーたち！
－エゾシカ対策事例報告会－」 26名参加
- 第4回：テーマ「ヒグマ問題の最前線」 18名参加
- 第5回：テーマ「エゾシカ活用の地域事例を学ぶ
－中川郡池田町編－」 11名参加
- 第6回：テーマ「シカ肉の使いにくい部位を美味しく調理する」 11名参加
- 第7回：テーマ「シカ捕獲のための射撃技術のキソ②」 8名参加
- 第8回：テーマ「リスクマネジメントを学ぶ」 10名参加
- 第9回：テーマ「歴史から学ぶ北海道の野生生物管理
－明治初期編－」 22名参加



本事業は、三井物産株式会社「三井物産環境基金（H27-30）」の助成を受けて実施しました。